

## 印旛都市V連協交流会 記録



恒例になりました印旛都市V連協交流会を開催しました。各V連協から多くの参加者があり、短い時間でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。次回は、栄町V連の担当です。

日時：平成28年6月22日（水）13:30～15:30

会場：ミレニアムセンター佐倉

参加者：（組織名を略しました）成田市V連4名、富里市V連10名、八街市V連4名、栄町V連8名、佐倉V連21名（V連団体会員10名、個人会員2名、役員7名、社協職員2名） 合計47名

前半の部を各V連協からの活動報告と意見交換、後半の部を研修会『グループ活動の活性化の取組みについて学ぶ』を行いました。



### 【各V連協からの活動報告による主な質疑・応答、意見交換の概要です。】

Q1:施設のボランティアポイント制度とは何ですか？

A1:成田では、市の制度として指定施設内での活動1時間に対し1ポイントを得る。対象は65歳以上。富里では独自の制度として29年度から制度をスタートさせることで準備中。

Q2:ボラ連だよりなどの配布方法は？自治会不参加者の対応は？

A2:佐倉は「はらっぱ」を市の制度を利用し各戸回覧。自治会不参加者の把握はできていない。成田は会員配布外に行政組織の窓口などに配架。八街は社協広報紙と合わせて各戸に配布。栄町は年2回、各戸配布(自治会加入者に限る)。富里は最近第1号を作成したばかり。

Q3:ボラ連だよりを作り手の自己満足になっていないか？

A3:栄町は毎号工夫し会員の役に立っている。佐倉(会員の「ひびき」の声)は、機関紙は写真なども多く採用され、とても見やすい。「はらっぱ」はボランティア紹介の記事を見て活動に参加される市民の方がいらっしゃり、会員増につながっている。

## 研修会『グループ活動の活性化の取組みについて学ぶ』

佐倉市V連に所属する2グループからの発表及び当日参加の団体会員（手をつなぐ・さくら）、個人会員2名、佐倉市ボランティアセンター活動概況の後、意見交換を行いました。

### ○手話サークル「希望（のぞみ）」（会員：50名）

手話の学習を通じ、聴覚障がい者と交流を行っています。聴覚障がいの当事者と手話により発表をいただきました。現在、聴覚障がいの会員は6名です。手話による拍手、アイラブユーや災害時のスカーフの紹介などがありました。

会の運営は「一人一役」。役割をみんなで分担し、責任をもって全員が自ら参加するという意識で行っています。



手話サークル「希望」

### ○心のふれあいボランティア「ひびき」（会員：78名）

佐倉市内の老人介護施設等（現在10施設）で、3・4人ずつチームを編成し、月1・2回、1～1時間半程度、施設のフロアで、1対1でお話をうかがっています。

毎年、「傾聴ボランティア養成講座」を開講しています。昨年度は、28名参加があり、その内11名が会員となりました。



心のふれあいボランティア「ひびき」



佐倉V連活動報告



手話で拍手

### 【佐倉市V連会員などからの発表による主な質疑・応答、意見交換の概要です。】

Q1:佐倉では障がい者作品展があるが、他ではどうか？

A1:富里では2月のフェスタで障がい者の作品を展示している。

Q2:傾聴ボランティアグループの定例会開催頻度や個人宅に伺う場合の人数は？

A2:佐倉（ひびき）は、定例会は年3～4回。施設訪問は固定メンバーがチームで対応している。ボランティアセンターからの依頼によっては、個人ボランティアの方が一人暮らしの方の家に、基本的に2人で訪問。富里は、定例会は月1回。個人宅訪問は必ず2名。八街（クローバーの会）は、定例会を月1回の他、反省会も開催。個人宅へは民生委員と2名で訪問。今後、一人訪問で問題ないケースは一人訪問とすることを検討。

Q3:「ひびき」の傾聴ボランティア養成講座には市外からも参加できるか？

A3:(佐倉「ひびき」)どうぞご参加ください。

Q4:佐倉の「手をつなぐ・さくら」の活動場所（一軒家）の賃貸料は？

A4:佐倉の「手をつなぐ・さくら」では、家主の好意で1日1000円（光熱費含む）で借りられている。成田の地域交流の場「そう庵」は家主が自費で改装し、会費1回100円の参加費でまかなっている。

Q5:佐倉市ボランティアセンターの「きてみてほっとカフェ」は、どれくらいの利用者がいるのか？

A5:昨年度から実施。数人の参加。日によって異なる。ずーっとお話しされる方もいる。